資料４

令和５年８月８日（火）佐賀市水対策市民会議
令和５年度第１回委員会

市民主体の河川清掃の意義について

１. 市民主体の河川清掃の意義の整理

（１）目 的

市民主体の河川清掃は、**地域のことは地域で取り組む**という考えの元、約４０年も続く取り組みとなっている。

一方で、「なぜ河川清掃を市民がしなければならないのか」、「行政の役割ではないのか」といった市民意識もある。

こういった状況を踏まえ、**“市民主体の河川清掃の意義”**について定義付けし、市民が共通認識をもって河川清掃に取り組みやすくすることを目的とする。

（２）実施内容

〇河川清掃の歴史や佐賀市のまちづくりの考え方を踏まえた位置づけの整理
〇河川清掃の必要性（洪水の防止等の市民生活への効果）の整理

↓

河川清掃の意義を簡潔にまとめた定型文として整理

（３）定型文の活用

〇「川を愛する週間」の自治会配布文書へ掲載
〇パネル等の作成、展示（河川愛護ポスター・標語受賞作品展示会場等）
〇市報、市ホームページ等への掲載
〇各種メディアを活用した広報
〇小中学校での校内放送による周知
〇自治会や学校・企業等を対象とした出前講座　等

（４）スケジュール

令和４年８月　令和４年度 第１回委員会
〇河川清掃の位置づけの整理
〇河川清掃の必要性の整理
→ **キーワードの抽出**

令和５年２月　令和４年度 第７５回総会
〇キーワードを踏まえた定型文の整理
→ **定型文の整理**

令和５年７月　佐賀市ホームページへの掲載
令和５年８月　河川愛護ポスター・標語受賞作品の展示会場でのＰＲ
令和５年８月～９月　秋の「川を愛する週間」配布文書等への掲載

２. 定型文の整理

令和４年８月に実施した第１回委員会での意見を参考に、さまざまな場面で活用できるよう長文、短文の定型文として整理し、令和５年２月の総会で提案した。総会での意見は下表に掲載。各々の意見を反映させた定型文（下線部：総会からの訂正箇所）について、会長、副会長と協議の上、決定した。

○第７５回総会での意見

行政の人たちは河川清掃をしないのかという声が地域から出ている。職員も道具を貸し出すだけではなく、佐賀市民の一員として、清掃活動に携わってもらいたい。他県から来た人は、何で行政がすることを市民がしているのと言われる。それに対して、行政も、市民と一体となって清掃活動に取り組むということを示してほしい。
掃除をしなければならない理由をしっかり謳った方がいい。非常に低い土地で、排水にも苦慮するので、流速が遅い。流れが遅いというところで、ごみがたまっていってしまうと。人工的につくられた水路なので、ずっと取り続けないと、どんどん蓄積して浅くなってしまう。その理由をしっかりと書かないと、防災面でも掃除が必要という納得感がない。 成果のところで、多布施川の水遊び場のことが書かれているが、わたしたちも 7、8 年くらい街なかの水路を魅力的にした使い方をいろいろ実践してきている。そういった市民が自ら水辺で過ごす使い方が出てきたことも書いていただければ、私たち以外にも、水辺をきれいにしようとか、使おうとかいう雰囲気が出てくる。平時の魅力、街の資源ということをしっかり訴えていかないと掃除のイメージも悪くなる。イメージ戦略としてメリットを、まちづくりやブランディングの視点でも、水辺がある魅力的なまちというところを謳ってほしい。
市街化区域においては、都市計画税を払っているのに何でせんばという意見が非常にあって、市民活動の弊害になっている。その辺を市民にわかりやすいように説明をしてほしい。小城原委員がおっしゃったように、市も一生懸命こういうことをやっているとはっきり示していただきたい。
自分たちのまちは、自分たちできれいにするということが一番大事。短文にも、昔の清流を取り戻すということを踏まえて、自分たちできれいに、自分たちのまちだよという気持ちを入れていただきたい。
生態系について素晴らしいものがあるので、そういう紹介もしていただきたい。クリークはいろんな機能をもっていて、昔はフナに鯉と、貴重な食糧源になっていた。また、町の区画がクリークによって仕切られている。寺や神社がクリークに囲まれているのは、あの世（彼岸）とこの世（此岸）を隔てる機能をもっている。そういうさまざまな機能を、歴史的なものも含めて、少し整理されたらいかがかと思う。

３. 定型文

（１）長文

・佐賀市ホームページの掲載文（春と秋の「川を愛する週間」）として使用

○ 佐賀市の河川等の特徴

佐賀市は、筑後川や嘉瀬川等下流部の沖積平野を中心に発展した都市で、南部の標高は１ｍ程度、市域中心部の佐賀城跡でも４ｍ以下の低平地であり、河川やクリークの水は、干満の差が最大６ｍの有明海の潮位に左右されます。さらに、背後に高い山地を有しないため、昔から「降れば洪水、晴れれば干害」といわれ、水の確保と排水に苦労してきた土地です。

特に、農業用水の不足は深刻な問題であり、水の不足を補うため、総延長２，０００キロにも及ぶ水路やクリークが網の目のように配置されています。また、江戸時代初期には、佐賀藩によって城下町に嘉瀬川の水を運ぶ河川や水路が整備され、多布施川を経由して城下町の隅々まで水路網がいきわたっています。このため、日常の風景に水辺が存在し、佐賀市民に心のやすらぎやうるおいを与えています。

これらの水辺は、水生生物や野鳥などが集まる場にもなっており、全国的に絶滅が心配されている貴重な生き物も、数多く生息しています。一方で、低平地にある川は勾配が極めて小さく、流れは緩やかで、底に土砂が少しずつ堆積します。水草があると流速がさらに遅くなるため、定期的な土砂や水草等の除去が欠かせません。人為的な管理を怠ると、徐々に川底が上がり、水が淀んで悪臭や虫などの発生につながり、生活環境を悪化させるとともに、水辺の生態系にも悪影響を与えてしまいます。

○ 河川清掃の歴史

戦前までの河川や水路、クリークは、飲料水に生活用水、農業用水や火災時の消火用水として利用され、また、豪雨のときは遊水地となり、反対に干ばつのときには、水飢饉を防ぐ貯水池の役割を担っていました。日々の暮らしに身近で大切な存在であり、人々はその維持管理に関心が深く、定期的に清掃するなど、水をきれいに保つ努力をしてきました。

しかし、戦後、上水道の普及や農業用の幹線水路の整備によってその役目が失われ、水路・クリークは手入れがされず、次第に汚れていきました。昭和３０年代から都市化とともに荒廃が著しくなり、昭和４０年代から昭和５０年前半にかけて、水路の汚濁はピークとなりました。公共下水道がまだ普及しない中、生活排水が直接水路に流れ込み、ヘドロが堆積し、淀み、ゴミが溜まり、悪臭を発し、人々は蚊の大量発生に悩まされていました。

その状況をみかね、青年会議所と若手住民約１００名のボランティアが立ち上がり、昭和５５年に松原川で河川清掃を行ったことを契機に、市内の他の水路でも清掃活動が始まりました。同年、市長が「この問題に行政も全力で取り組むが、どうしても市民の協力が必要である」と訴え、各界各層の代表者が集まり佐賀市水対策市民会議が発足。「昔の清流を取り戻す」ことを目標に、昭和５６年から春と秋の「川を愛する週間」を設定し、現在まで４０年以上続く市民総出の河川清掃が始まりました。

○ 河川清掃の成果

春は４月頃、秋は１０月頃、毎年約９万人の人が参加する「川を愛する週間」では、市民が川掃除を行い、佐賀市が清掃道具の貸出と河川ごみの回収・処分を行っており、自治会・事業所・学校・個人などさまざまな立場の人たちが市と協働して河川清掃に取り組んでいます。「自分たちのまちは自分たちできれいにする」と、長きに渡って取り組んできた成果は、水路の水の浄化としてあらわれており、下水道の普及が進んだことも影響し、市内の水路の水質は大幅に改善されています。~~「わたしたち佐賀市民」が、佐賀の川を蘇らせたのです。~~

佐賀市では、きれいになった市街地の川を利用して、毎年夏に「多布施川水遊び場」が開設されており、期間中は一日中歓声と水しぶきをあげる子どもたちで賑わっています。また、佐賀の貴重な財産であり、魅力でもある水路・クリークを活用した市民発信による水辺イベントも行われています。

河川清掃は、このような水辺に親しむ場所の保全につながるだけではありません。近年の豪雨による浸水被害を軽減するため、流水を阻害する河川ごみ・水草の除去の必要性がこれまで以上に増してきており、治水対策としてとても大きな役割を果たしています。

○河川清掃の必要性

河川や水路・クリークは、雨水排水・農業用水・消火用水などでわたしたちの生活に欠かせない存在であり、住民みんなでその恩恵を享受しています。しかし、網の目のように張り巡る水路の維持管理は、行政のみでは難しく、市民の協力が不可欠です。市も道具の貸出・ごみの処分だけでなく、一市民、一事業所として河川清掃に取り組んでいます。この問題は、市民・事業者・市が一体となり、佐賀市をあげての取り組みが必要です。

（２）短文

・春と秋の「川を愛する週間」の周知で使用

①自治会回覧用チラシ

②企業訪問用チラシ（自治会用）

③ポスター

〇総会で提案した定型文

佐賀市は低平地で、水の確保と排水のため、全国的にも水路やクリークが多い土地です。“昔の清流を取り戻す”ことを目標に、昭和５６年に始まった市民総出の河川清掃によって、汚れていた水路の水質は大幅に改善され、佐賀の川を蘇らせることができました。この河川清掃は、きれいな水辺を保つだけでなく、近年の豪雨による浸水被害の軽減にも役立っています。

〇総会後に訂正した定型文

その１（ポスターなど）

佐賀市は低平地で、水の確保と排水のために全国的にも水路やクリークが多く、水の流れは緩やかで、泥やごみが溜まりやすくなっています。川がひどく汚れていた昭和５６年、“昔の清流を取り戻す”ことを目標に、市民総出の河川清掃が始まりました。「自分たちのまちは自分たちできれいにしよう」と、市内各地に清掃活動が広がり、水路の水質は大幅に改善~~し、佐賀の川は蘇りました。~~されました。

この河川清掃は、きれいな水辺を保つだけでなく、流れを遮るものを取り除くことで、近年の豪雨による浸水被害の軽減にも役立っています。市民生活に欠かせない河川を今後も一緒に守っていきましょう。

その２（自治会・事業所用チラシなど）

佐賀市は低平地で、水の確保と排水のために全国的にも水路やクリークが多く、水の流れは緩やかで、泥やごみが溜まりやすくなっています。川がひどく汚れていた昭和５６年、“昔の清流を取り戻す”ことを目標に、市民総出の河川清掃が始まりました。「自分たちのまちは自分たちできれいにしよう」と、市内各地に清掃活動が広がり、水路の水質は大幅に改善~~し、佐賀の川は蘇りました。~~されました。今後も市民・事業者・市が一体となって取り組んでいくことが必要です。

①自治会回覧用チラシ

回覧													

第４３回 秋の「川を愛する週間」９月２５日（日）～１０月２３日（日）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿では、＿＿＿月＿＿＿日（＿＿＿曜日）に

延期の場合は、＿＿＿月＿＿＿日（＿＿＿曜日）です。

作業開始時間 ＿＿＿＿＿：＿＿＿＿

集合場所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

自治会長（班長）からのお知らせ

住みよいきれいな町にするために、みなさんの御理解と御協力をお願いします。

佐賀市は低平地で、水の確保と排水のために全国的にも水路やクリークが多く、水の流れは緩やかで、泥やごみが溜まりやすくなっています。川がひどく汚れていた昭和56年、“昔の清流を取り戻す”ことを目標に、市民総出の河川清掃が始まりました。「自分たちのまちは自分たちできれいにしよう」と、市内各地に清掃活動が広がり、水路の水質は大幅に改善されました。今後も、市民・事業者・市が一体となって取り組んでいくことが必要です。

◇ 秋の「川を愛する週間」

佐賀市水対策市民会議、佐賀市

・佐賀市役所　本庁　河川砂防課　　電話（直通）４０－７１８２

・北部建設事務所（大和町・富士町・三瀬村にお住まいの方）

電話（直通）５８－２８６３

・南部建設事務所（諸富町・川副町・東与賀町・久保田町にお住まいの方）

電話（直通）４５－１８０４

②企業訪問用チラシ（自治会用）

※ □ 自治会記入欄

第４３回　秋の「川を愛する週間」

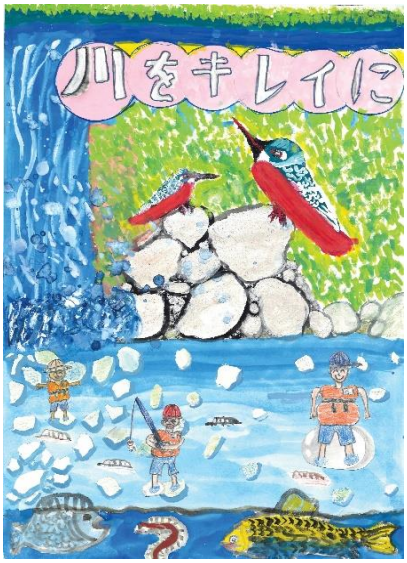
９月２５日（日）～１０月２３日（日）

□ の皆様へ

□ 自治会河川清掃のお知らせ

令和４年度　河川愛護ポスター入賞作品（小学生の部）

【　金　賞　】



～川を愛する週間～

佐賀市は低平地で、水の確保と排水のために全国的にも水路やクリークが多く、水の流れは緩やかで、泥やごみが溜まりやすくなっています。川がひどく汚れていた昭和５６年、“昔の清流を取り戻す”ことを目標に、市民総出の河川清掃が始まりました。「自分たちのまちは自分たちできれいにしよう」と、市内各地に清掃活動が広がり、水路の水質は大幅に改善されました。今後も、市民・事業者・市が一体となって取り組んでいくことが必要です。

地域の水路の清掃を下記に実施します。

私達と一緒に身近な地域の水路をきれいにしましょう。

日時　□月□日　□時　集合場所　□

③ポスター

第43回
秋の「川を愛する週間」

令和5年9月24日(日)～10月22日(日)

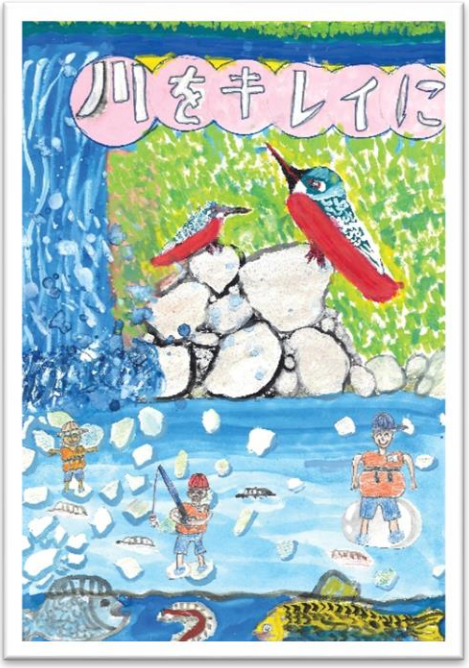
令和４年度　河川愛護ポスター受賞作品

金賞

日新小学校
中島　辰海　さん

金賞

赤松小学校
富崎　櫂人　さん



～「川を愛する週間」～

佐賀市は低平地で、水の確保と排水のために全国的にも水路やクリークが多く、水の流れは緩やかで、泥やごみが溜まりやすくなっています。川がひどく汚れていた昭和５６年、“昔の清流を取り戻す”ことを目標に、市民総出の河川清掃が始まりました。「自分たちのまちは自分たちできれいにしよう」と、市内各地に清掃活動が広がり、水路の水質は大幅に改善されました。

この河川清掃は、きれいな水辺を保つだけでなく、流れを遮るものを取り除くことで、近年の豪雨による浸水被害の軽減にも役立っています。市民生活に欠かせない河川を今後も一緒に守っていきましょう。

令和４年度　河川愛護標語受賞作品

金賞　のぞきこむ　みえるさかなと　ぼくのかお
赤松小学校　野口　雄大　さん

銀賞　この川の　きれいな水と　生きていく
赤松小学校　田中　駿佑　さん

銀賞　清そうで　ぼくから川へ　おん返し
北川副小学校　松尾　恵太郎　さん

佐賀市水対策市民会議　佐賀市